

H4エリア汚染土壌回収計画について

2016年11月24日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

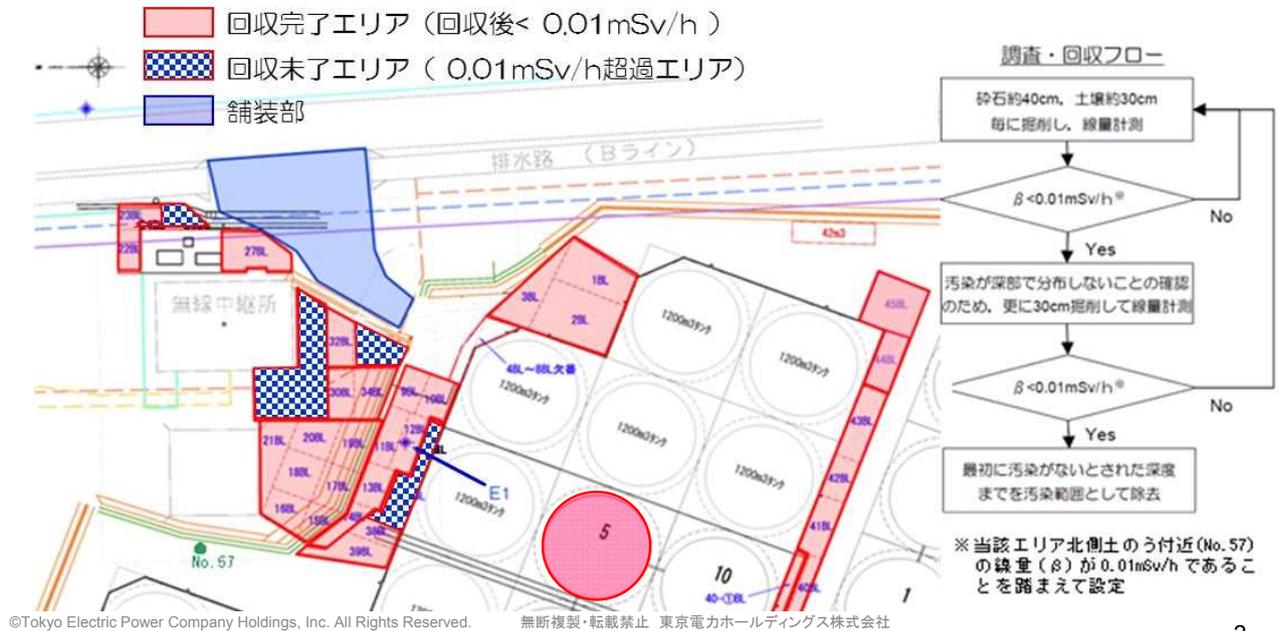
1. H4エリアの汚染水漏えいと土壌汚染について（経緯）

TEPCO

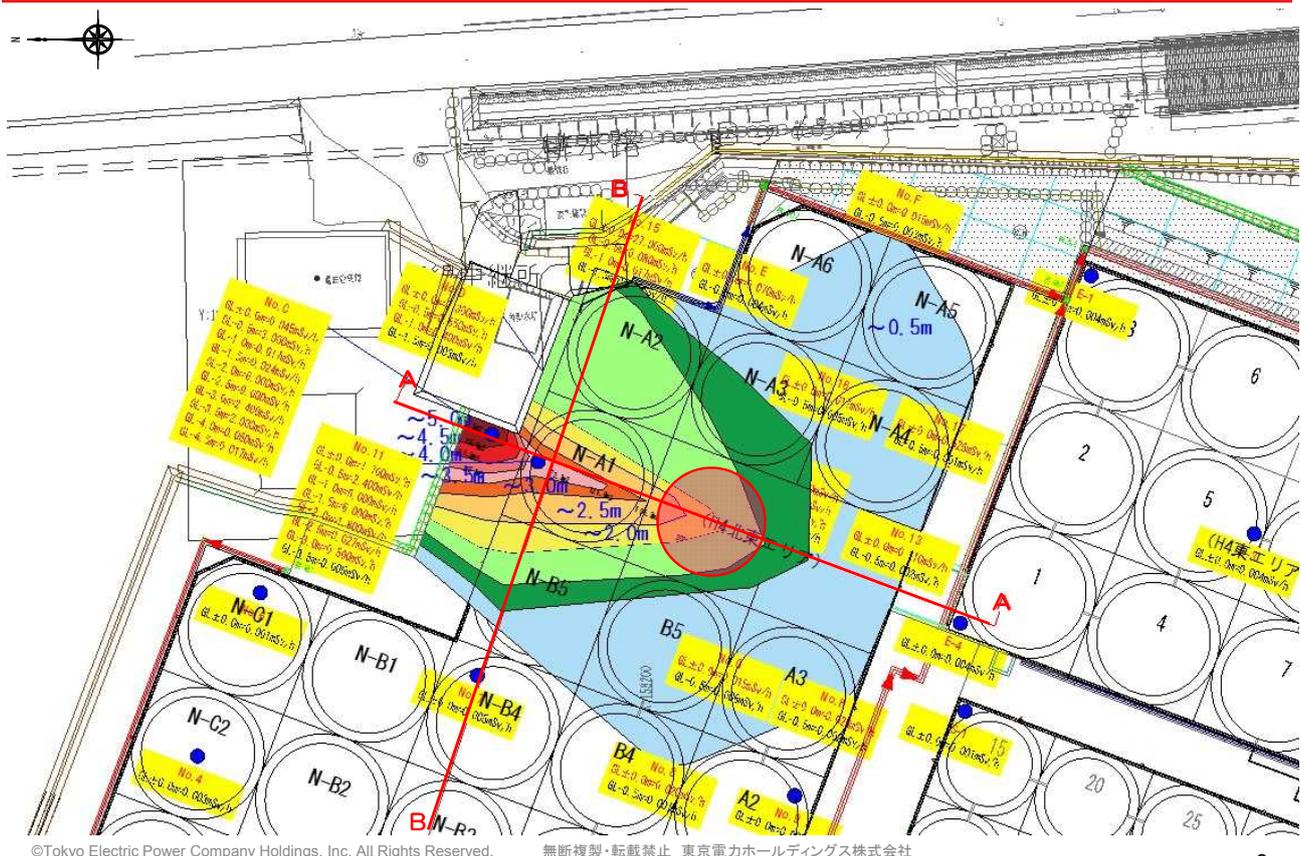
- 2013年8月19日に、H4北エリアのNo.5タンク（RO濃縮水を貯蔵）にて汚染水の漏えいを確認。漏えい量は推定300m³。
（Sr-90 3.7E+13Bq）
- 当時、タンク周囲の堰の排水弁を開運用していたため、漏えいした汚染水が北東側の地面に流出し、土壌に浸透。
- その後の対応で、堰周辺の土壌を878m³回収。
（Sr-90 80%回収と評価）
- ただし、タンク基礎下部及び無線局周囲に回収困難な汚染土壌が残留しており、タンク基礎下部の汚染土壌は、タンクリプレイス時に調査し、可能な限り回収する予定としている。
- また、H4タンクエリア内外に観測孔を設置し、現在まで地下水の監視を継続している。

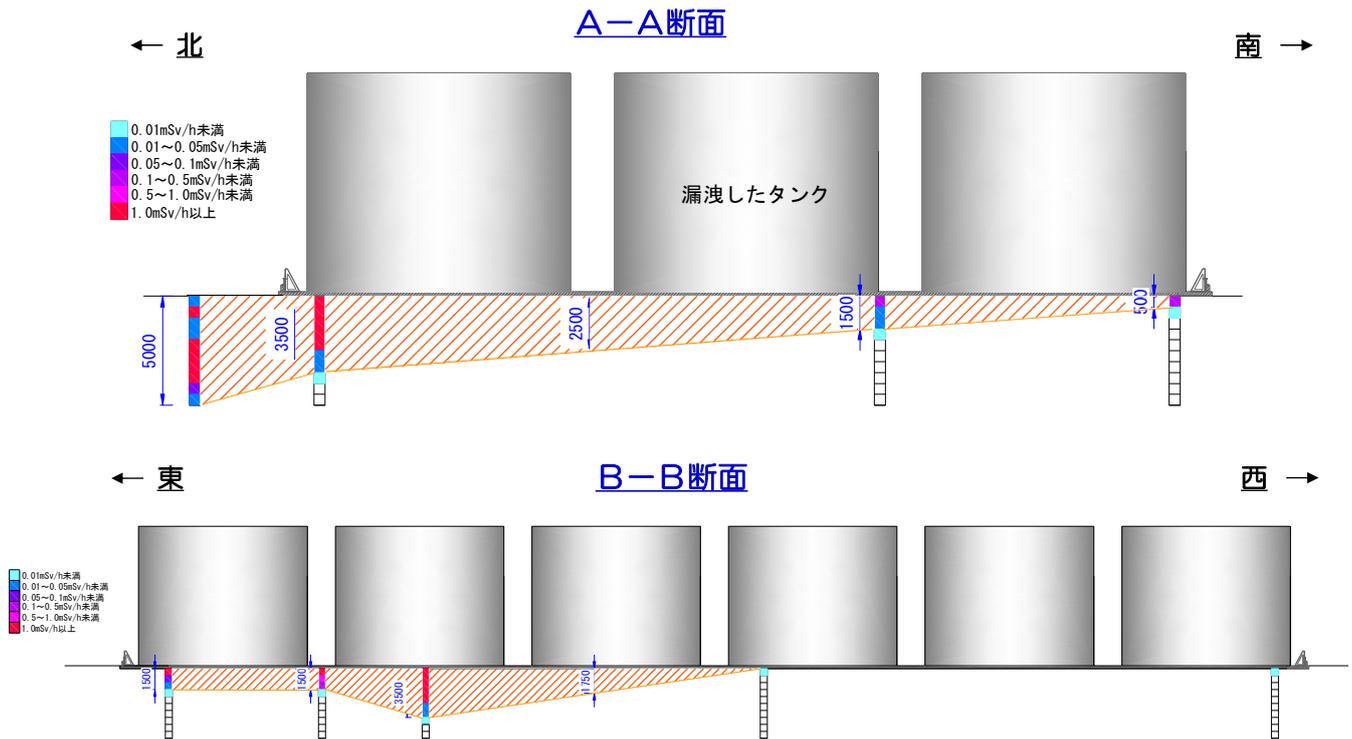
2. 汚染土壌の回収状況（2014年まで）について

- 堰外で、地表のサーベイを行って土壌回収範囲を決め、0.01mSv/hを基準に回収を実施。
- ただし、タンク基礎脇や無線局周囲に、掘削後も0.01mSv/hを下回ることができなかった回収困難な土壌が残留。
- また、タンク両脇でのコア抜きの結果（タンク北東側は汚染確認）から、コンクリート基礎下もタンク付近まで汚染水が回り込んでいることを確認済。



3. 汚染土壌範囲調査結果（※拡大版は別紙1を参照）





©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

4

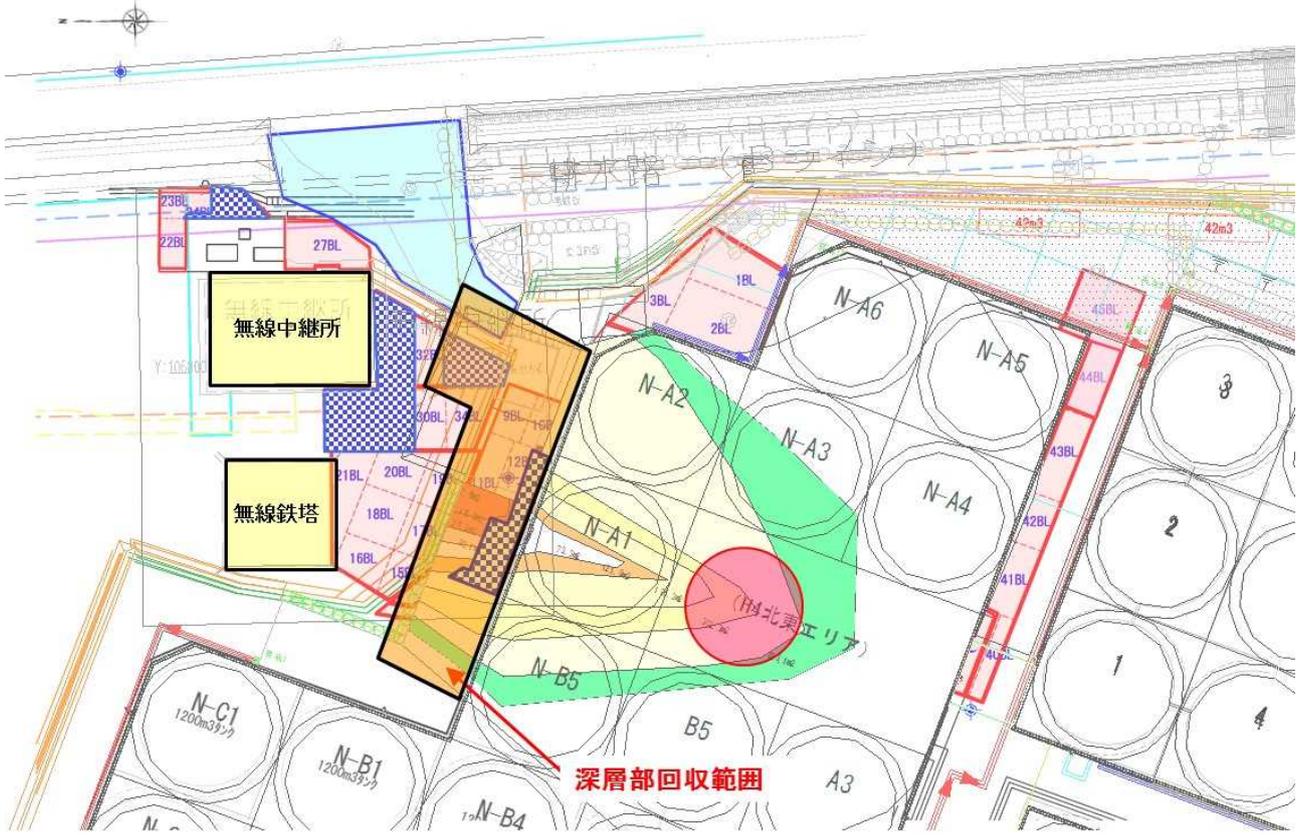
4. 汚染土壌回収方針

- 汚染土壌については、堰およびコンクリート基礎部を撤去し、その後、表面線量率が0.01mSv/hを下回る深さまで掘削して回収する。
- 回収の範囲は、3. 汚染土壌範囲調査結果に示す汚染が認められた範囲とする。
- 汚染土壌の回収作業については、降雨による汚染土壌の流出、拡散を防止するため、降雨時は原則作業を中止する。また、撤去したコンクリート基礎部には、雨水浸透防止のため盛土及びシートを設置し、作業で撤去したシートは、毎日作業終了後に再設置する。
- 作業中は空气中放射性物質濃度の測定を適宜実施する。
- 回収した土壌については、飛散抑制対策を土嚢袋および鋼製角形タンク(ノッチャク)にて行い、瓦礫一時保管施設エリアNに保管する。
- H4エリアのその他の範囲についても、適宜表面線量率測定を行い、必要に応じて上記の対応に準じて作業を行う。

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

5



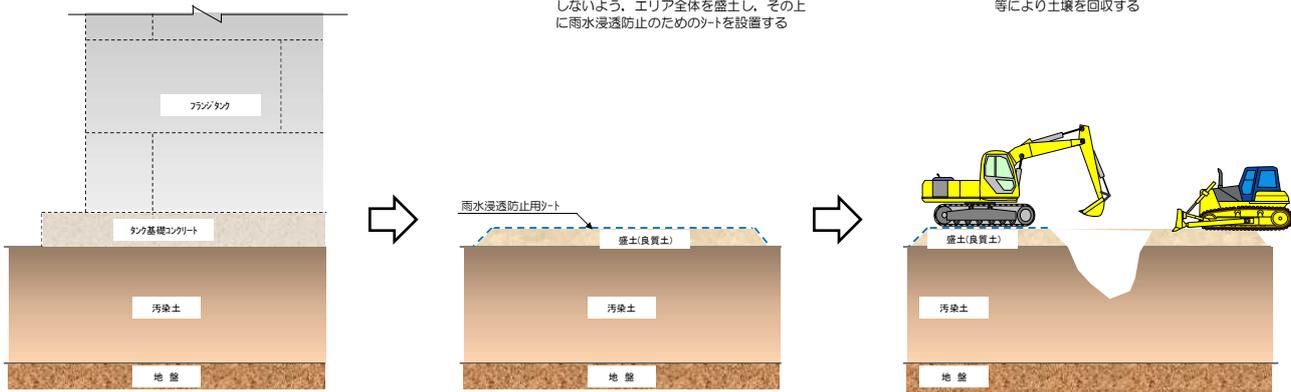
©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

5. 汚染土壌回収方法 《浅層部》

【STEP 1】 フランジタンク撤去 → タンク基礎コンクリート撤去
※7トン/タリ タリ解体後に基礎上面を除染し解体

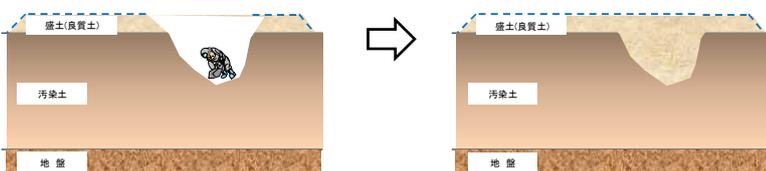
【STEP 2】 エリア全体を盛土 → シート養生
※撤去したコンクリート基礎部に雨水が浸透しないよう、エリア全体を盛土し、その上に雨水浸透防止のためのシートを設置する

【STEP 3】 バックホウおよびブルドーザによる回収
※施工箇所の養生シートを外し、バックホウ等により土壌を回収する



【STEP 4】 底部の放射線量確認
※想定される汚染土の境界ラインまで掘削を行い、底部の放射線量を測定し、底部の線量が0.01mSv/h未満であることを確認する
底部の線量が0.01mSv/h以上の場合は、掘削・測定を繰り返し実施

【STEP 5】 回収した範囲の養生
※1日の作業が完了したら、掘削部への雨水浸入を防止するため、良質土にて埋戻しを行いシートにて養生を行う。
降雨があった場合は、雨水は土壌に浸透せず、周囲に排水する。

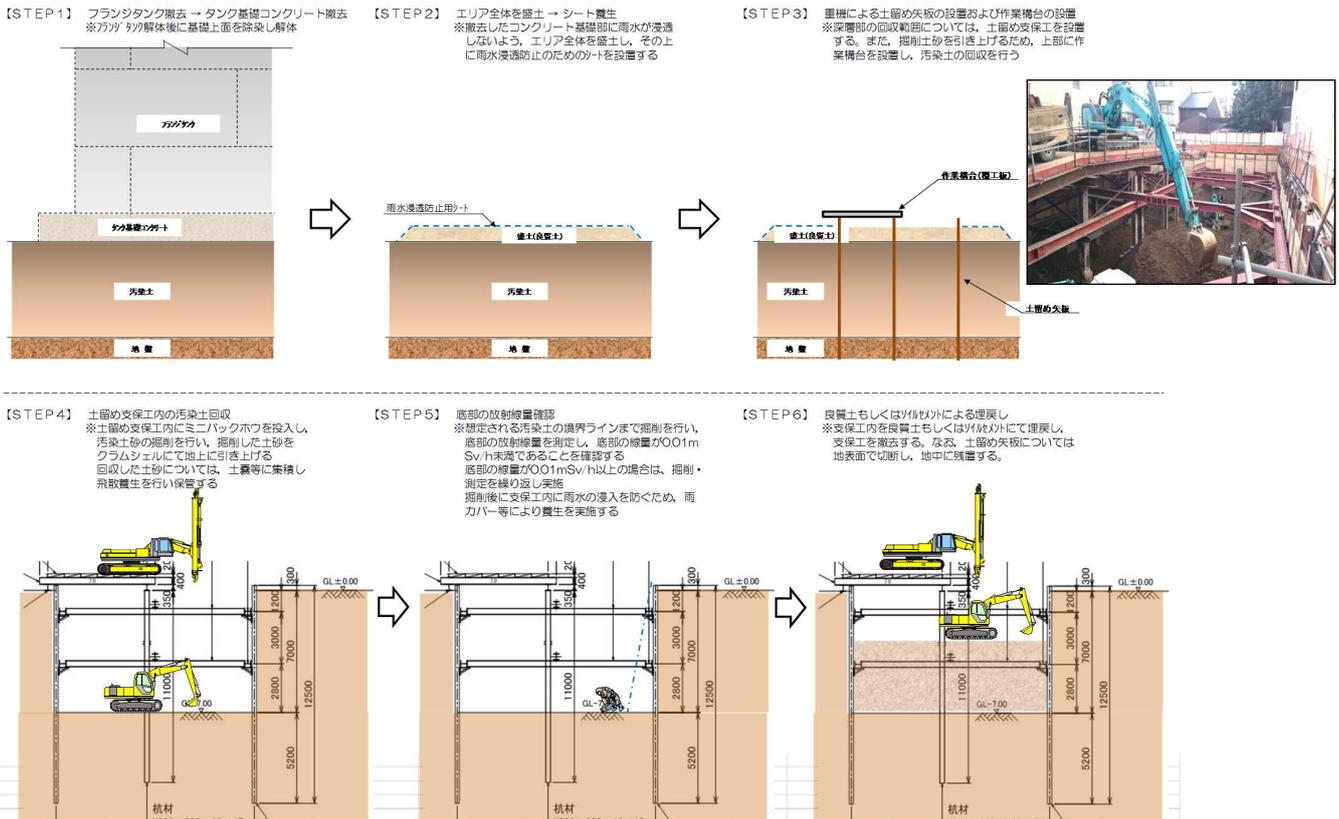


過去の汚染土回収状況



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

5. 汚染土壌回収方法《深層部》



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

6. 汚染土壌回収作業中のモニタリング

- 回収作業中は、地下水のモニタリングを継続する。ただし、E-1観測孔は、観測孔周囲にも回収すべき汚染土壌が存在するため、当該エリアの回収時に撤去する。
- 回収作業は、南側から実施し、E-1観測孔周囲の回収を最後に行う。



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

7. 汚染土壌回収工程

- 汚染土回収は「浅層部→深層部」の手順で実施する。
- 雨天時は作業中止
- 作業着手は規制庁他、関係各所の上承後に着手する。

	平成28年11月	平成28年12月	平成29年1月	平成29年2月
《浅層部》				
《深層部》				

※基礎コンクリート撤去含む



工
事
用
変
電
所

防火用水池
No. 7

4号深井戸

(H6北エリア)
(Vvエリア)

